

なるほど発見! 南西アジア



これまでも、これからも。深化する日本とのパートナーシップ。



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

皆さんは「南西アジア」と聞いて、何をイメージするでしょうか。カレー?もちろんカレーはこの地域の代表的な料理ですが、それだけではありません。一般に「南西アジア」と言われるインド、スリランカ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、モルディブの7か国は、古代文明や豊かな自然に恵まれた個性的な国であり、日本との関係も実は深いです。それぞれのお国事情について、駐日大使の皆さんにご紹介していただきました。



国名パキスタンは
頭文字だって、
知ってますか？



インドス文明最大の都市モヘンジョダロで栄えたパキスタン。国名の由来はヒンドゥスターニー語でバク(神聖な、清浄な)とスタン(国、地方)を合わせたものであり、同時に国を構成する5地方、パンジャブ、アフガン(現在のハイバル・パクトゥンハワ)、カシミール、シンドの頭文字とバルチスタンを組み合わせた言葉とされています。



- 首都 イスラマバード
- 人口 2億777万人
- 面積 79.6万km²
(日本の約2倍)
- 言語 ウルドゥー語(国語)、
英語(公用語)



世話、だるま、
護摩…いずれも
インドから
伝わった言葉です。



- 首都 ニューデリー
- 人口 12億1,000万人
- 面積 328.7万km²
(日本の約9倍)
- 言語 連邦公用語はヒンディー語、
他に憲法で公認されている
州の言語が21



モルディブは島の集合体。さて、島の数はいくつあるでしょう？



モルディブは約1,200の島からなる島国で、そのうち200の島にモルディブ人が住んでいます。また、約100島がリゾート島になっており、年間約140万人の観光客が訪れます。2011年に後発開発途上国(LDC)を卒業し、一人あたりのGDPは南西アジア最大を誇ります。



- 首都 マレ
- 人口 40.7万人
- 面積 298km²
(東京23区の約半分)
- 言語 ディベヒ語



ネパールでは、
6,000m以下の山は
「登山」とは言いません。



大国の中国とインドに挟まれ、世界最高峰のエベレストなど8,000m級の8峰が連なる山岳国。ネパール人は、雪線を超える6,000m以上の頂上を目指すことを「登山」、それ以下の山歩きは「トレッキング」と言います。



- 首都 カトマンズ
- 人口 2,898万人
- 面積 14.7万km²
(北海道の約1.8倍)
- 言語 ネパール語



GNHという言葉、 ご存じですか？



ブータンでは、物理的な発展だけではなく精神的な豊かさを含む総合的な豊かさを大切にするため、世界的な指標であるGDP(国内総生産)ではなく、GNH(国民総幸福量)という指標を用いています。国勢調査でも国民の約9割が「幸せ」と回答する、まさに「幸福の国」です。



- 首都 ティンパー
- 人口 約79.7万人
- 面積 約3.8万km²
(九州とほぼ同じ)
- 言語 ゾンカ語(公用語)等



誰もがきっと、
 バングラデシュ製の
 服を持っている
 はずですよ。



国名は「ベンガル人の国」という意味です。現在、中国に次ぐアパレル大国として急速に経済成長を続けています。日本のファストファッションの多くもバングラデシュで作られ、親日家の国民が多いのも特徴です。



- 首都 ダッカ
- 人口 1億6,175万人
- 面積 14.7万km²
(日本の約40%)
- 言語 ベンガル語



スリランカの休日は
満月の日か三日月の日、
さてどっち？



- 首都 スリ・ジャワルダナプラ・コッテ
- 人口 2,144万人
- 面積 6.6万km²
(北海道の約0.8倍)
- 言語 シンハラ語(公用語)、
タミル語(公用語)、英語(連結語)

友好関係のはじまりと今

交流のはじまり

南西アジアの国々は、いずれも古くから日本と友好関係を築いてきた親日国です。はるか昔から今に続く、日本と南西アジアの歴史を紐解いてみませんか？

パキスタン

PAKISTAN

伝統的な親日国で、9割以上が日本車。

古くから綿花の栽培が盛んだったパキスタン。戦後、日本はパキスタンの綿花を使って繊維産業を発展させ、パキスタンも綿花を輸出することで潤うという互惠関係にありました。1960年頃から続々と日本車メーカーが進出。現在もパキスタンの町を走る車の9割以上が日本車です。



パキスタンの綿花は世界でも屈指の生産量を誇る。



町を走る車は日本車ばかり。日本の自動車メーカーにとって重要な市場のひとつ。

インド

INDIA

戦後の日本に笑顔を届けたインド。

日本に初めて来たインド人と言われているのが、736年来日した菩提僊那という僧侶です。東大寺の大仏開眼供養の導師を務めたことでも有名で、日本とインドは仏教を通じ古くから親交を深めてきました。1949年には、ネルー首相が上野動物園にインド象を贈り、戦後の日本を元気づけています。その約10年後、今度は日本が初となる円借款をインドに対して実施しインド経済を支援したのです。



インド象はネルー首相の娘の名前を取り「インディラ」と名付けられた。(写真提供：(公財)東京動物園協会)



インドと深い繋がりがある東大寺。752年に菩提僊那が大仏開眼導師を務めた。

スリランカ

SRI LANKA

日本を救った、スリランカ代表の演説。

欧州航路の寄港地として、戦前から夏目漱石など多くの著名人が訪れてきたスリランカ。1951年のサンフランシスコ講和会議においては、対日賠償請求権の放棄を表明。故ジャヤワルダナ元大統領が「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む」と訴えた演説が参加国の心を打ち、日本の国際社会復帰へと繋がっていきました。



寄港地として栄えたコロombo港の現在の様子。



(J・R・J・C蔵)
サンフランシスコ講和会議で演説するジャヤワルダナ財務相(当時)。

ネパール

NEPAL

100年の時を越え、ネパールに根付いた日本とは？

日本人として初めてネパールを訪問したのは、僧侶の河口慧海とされています。1899年のことでした。1902年にはネパールから最初の留学生が来日しています。菊や藤の花、柿などはネパールでもよく見かけますが、これらはその時の留学生がネパールに持ち帰り根付いていったとされています。



仏教学者、探検家としても知られている河口慧海。



1902年来日したネパール初の留学生。

バングラデシュ

BANGLADESH

国旗に秘められた日本との絆。

1971年のパキスタンからの独立では、日本は西側諸国に先駆けて独立を支援し、友好関係を築いてきました。ムジブル・ラーマン初代大統領は、敗戦から高度成長した日本の国造りを見本とすべく、国旗に日本の日の丸と似たデザインを選んだと言われています。



ムジブル・ラーマン大統領が描かれた硬貨。2012年には、日本が2タカ貨幣5億枚の製造を受注した。



緑は豊かな大地、赤は独立戦争の犠牲者の血(又は太陽)を表している。

ブータン

BHUTAN

ブータンで最も有名な日本人、ダショー西岡。

ブータンと日本の協力関係は1964年に始まります。海外技術協力事業団から農業の専門家として故西岡京治氏が派遣され、農業の機械化や米の品種改良など、農業の発展に貢献しました。その活動はブータン国民から信頼を集め、外国人として初めて「ダショー※」の称号を国王から授与されました。

※ダショーは「最高に優れた人」を意味する名誉称号。



故西岡氏の功績を顕彰するために建てられた仏塔「西岡チョルテン」。(写真提供：JICA/野町和嘉)

モルディブ

MALDIVES

モルディブはカツオ節、発祥の地！

水産業が盛んなモルディブ。14世紀前半にはカツオ節を製造しており、その製法が琉球王国から日本全土に広がったという説があります。一方で、日本の技術提供により生まれた特産品の「ツナ缶」は、現在海外にも輸出されています。2011年の東日本大震災の際には、モルディブ国民から70万個ものツナ缶が日本に届けられました。



「モルディブ・フィッシュ」と呼ばれるモルディブのカツオ節。



東日本大震災の際に支援物資として届けられた「ツナ缶」。



ターリー【インド】

ターリーとは、カレーやナン、デザートなど、様々な料理が一皿に盛られてくるインド風定食のこと。地域ごとに特色があり、インドを訪れたらその違いを楽しむのもおすすめです。



キリパット【スリランカ】

スリランカの主食はご飯。コナツミルクでお米を炊くキリパットは、お祝い事には欠かせない縁起の良い食べ物です。



ダルパート【ネパール】

ダルパートとは、ダル(豆のスープ)、パート(ご飯)、タルカリ(野菜などのカレー)にアチャール(漬物)を加えたもの。朝と晩の1日2回食べる、ネパールの国民食です。



チャプリケバブ【パキスタン】

たっぷりの油で焼き上げたスパイシーな牛肉のハンバーグで、ナンと一緒に食べます。冬場はカラダを温める料理として男性たちに大人気。



マチェル・トルカリ【バングラデシュ】

マチェル・トルカリは魚を使ったバングラデシュで人気のカレー。川に囲まれていることから「ベンガル人は米と魚でできている」と言われるほど川魚を食べるそう。



エマダツィ【ブータン】

ブータンの人々は、辛い食べ物大好き。たくさんの唐辛子とチーズを使った「エマダツィ」は定番メニューのひとつで、赤米と一緒に食べるのがブータン流です。



ガルディヤ【モルディブ】

マグロを煮込んだ塩味のスープで、モルディブ人のソウルフード。カレー料理で胃が疲れたときにもおすすめの優しい味わいです。

友好関係のはじまりと今

そして、今を紡ぐ



インド

INDIA

深い歴史に根ざし、未来を拓く。

人口は世界第2位を誇り、急速な経済成長を遂げているインド。進出日本企業も増加の一途を辿っています。日本とインドは2014年に「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」を構築し、2015年に「日印ヴィジョン2025」を発表。近年、日印間では日本の新幹線システムの導入計画に代表される経済分野での協力に加えて、防衛・安全保障協力が急速に進展しています。アジアの2大民主主義国として、安全保障、経済、文化、人的交流、グローバル諸課題や地域情勢等、幅広い分野での協力が深化されています。



(写真提供:内閣広報室)
安倍総理とモディ首相は近年活発に首脳会談を開催。写真は2017年のインド訪問時。



(写真提供:内閣広報室)
モディ首相来日時の様子(2016年)。

スリランカ

SRI LANKA

南西アジアのハブを目指して。

2009年の紛争終結後、高い経済成長率を維持しているスリランカ。外国人観光客も年間200万人を突破し増加し続けています。日本はスリランカの紛争終結に向け、2002年に明石康・元国連事務次長を平和構築の政府代表に任命し、和平に向けて積極的に関わってきました。近年では空港や港などの運輸インフラを整備して各国との連結性を高めることで、経済発展にも寄与しています。また、安全保障や海上安全分野においても、能力構築支援を中心にスリランカとの協力を深めています。



スリランカの平和構築に尽力した明石康・元国連事務次長。



スリランカを訪問した河野大臣がコロンボ港を視察(2018年)。

ネパール

NEPAL

新たな国造りに向けて協力。

ネパールでは2006年に紛争が終結すると、2008年に王制から連邦民主共和制へ移行されました。日本も民主化定着へ向け協力を行う中、2015年に約9,000名の犠牲者を出した大地震が発生。日本は緊急支援を実施し、現在もインフラ再建などの震災復興事業を推進しています。また、両国は2016年に国交樹立60周年を迎えたことから、多彩な記念事業を開催し、交流の輪を広げました。



カトマンズにて開催された「日本・ネパール外交関係樹立60周年記念式典」で和太鼓の演奏を披露。



(写真提供:JICA)
ネパール大地震後の捜索救助活動の様子。

パキスタン

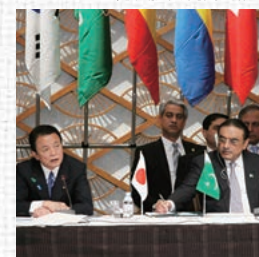
PAKISTAN

地域を安定化し、平和を目指す。

パキスタンの最重要課題として掲げられているのが、テロ対策をはじめとする治安改善です。日本は2009年に「パキスタン・フレンズ会合」を東京で開催する等、地域の平和に向けて取り組んできました。また、パキスタンでの大地震や大洪水の際には、緊急援助隊の派遣など復旧・復興支援を実施。日本の支援活動は高く評価され、パキスタンの国家防災基本計画にも生かされています。



(写真提供:内閣広報室)
日・パキスタン外相会談(2018年)。



(写真提供:内閣広報室)
東京で「パキスタン・フレンズ会合」を開催(2009年)。

バングラデシュ

BANGLADESH

貧困脱却への「包括的パートナーシップ」。

バングラデシュ政府は、2021年までに全国民が中所得国レベルの生活を享受できる社会を目指しています。日本は2014年にバングラデシュと「包括的パートナーシップ」を立ち上げ、持続可能かつ公平な経済成長を後押ししています。1998年には、国土を東西南北に分断するジャムナ川にかかるジャムナ多目的橋(全長4.8km)が日本・世界銀行・アジア開発銀行の協調融資で建設されました。また、日本は約90万人のミャンマー・ラカイン州からの避難民を受け入れているバングラデシュ政府の取組を国連機関やNGOと連携しながら支援しています。



(写真提供:JICA)
ジャムナ多目的橋はバングラデシュの旧紙幣の絵柄に採用されていた。



(写真提供:内閣広報室)
両国は、2014年のハシナ首相の訪日を機に、包括的パートナーシップを立ち上げた。

ブータン

BHUTAN

人と人の交流を通じ、築かれる友好関係。

2011年、国王王妃両陛下が日本を訪れたのをきっかけに、ブータンは「幸せの国」として日本でも広く知られるようになりました。一方で、貧困やインフラ整備などの課題も多く、日本は農業分野や道路、橋梁といったインフラ支援をはじめ、生活水準の向上に協力しています。また、スポーツや科学技術など、多方面にわたる交流が続けられています。



(写真提供:ブータン政府)
国王王妃両陛下が国賓として訪日(2011年)。



河野大臣がブータンを訪問(2018年)。

モルディブ

MALDIVES

日本の地デジをモルディブへ!

モルディブは2011年に後発開発途上国を卒業し、一人当たりの名目GDPは南西アジア最大となっています。2014年に訪日したヤーミン大統領によりモルディブの地上デジタルシステムに日本方式が採用されることが表明され、現在も支援を進めています。2016年には在モルディブ日本国大使館が開設される等、日・モルディブ関係は近年ますます密になっています。

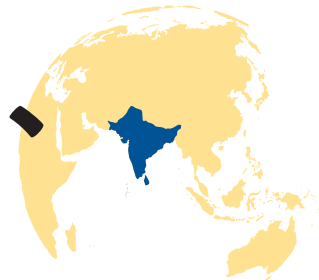


竹下巨衆議院議員(総理特使)がモルディブ大統領就任式へ出席(2018年)。

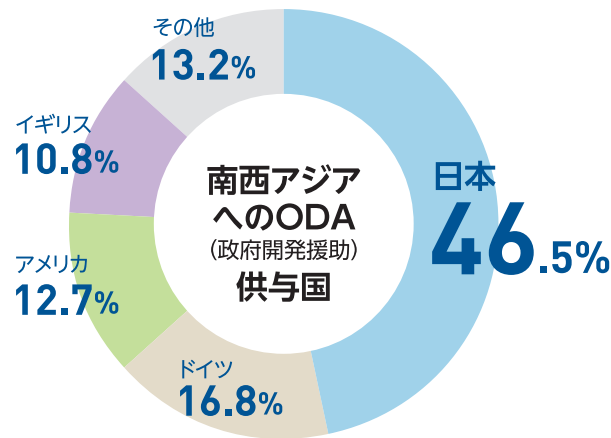


モルディブのシャーヒド外相が訪日(2018年)。

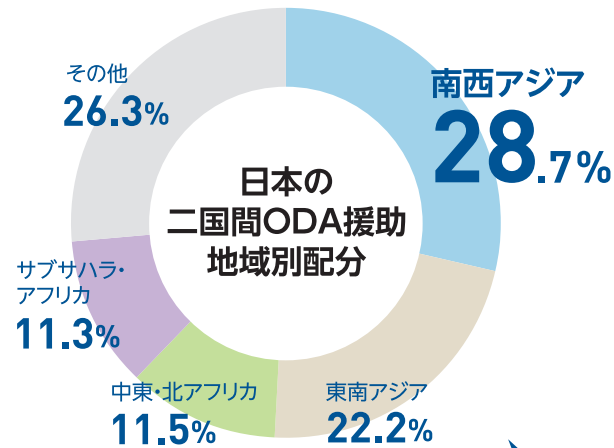
南西アジアの発展へ、 日本ができること



巨大な人口を有する南西アジアは近年目覚ましい経済成長を遂げており、マーケットとしても投資先としても注目を集めています。一方で、貧困や格差、紛争からの復興・平和構築、気候変動・災害対策など様々な問題を抱えており、国際社会からの支援が必要な地域でもあります。日本は長年にわたり南西アジア地域の最大のパートナーとして支援してきました。2017年の日本のODA供与額は、インドが1位、バングラデシュが2位、スリランカが13位となっています。



2017年の南西アジア地域への支援の約47%を日本のODAが占めており、日本は南西アジア地域にとって最大のパートナーです。



2017年の南西アジア地域への日本のODAは約4,860億円(支出総額ベース)で、日本のODA全体の約28.7%を占めています。供与額はこの10年間で3倍以上になりました。

平均時速 **13km/h**
慢性的な渋滞が発生

インドでは近年、大都市の人口が急増。鉄道の整備が進んでいなかったため、デリー市内は慢性的に渋滞が発生し、平均車両速度は13km/hとなっていました(東京は24.7km/h)。交通混雑の緩和と排気ガスによる大気汚染の公害減少が求められています。



(写真提供: JICA/久野真一)

デリー高速輸送システム建設事業

日本は有償資金協力(円借款)により、デリー高速輸送システム(デリーメトロ)建設を支援しています。エレベーターや女性専用車両を採用するなど女性や高齢者等にも配慮しながら、毎日約300万人に便利で快適な移動手段を提供します。また、日本は資金や技術の提供だけでなく、作業員の安全帽・安全靴の着用や整理整頓の意識も指導し、インドの工事に文化的な革新を起こしたと言われています。

1人あたりGDP

4,074\$
1人あたりGDP南西アジア第2位へ

スリランカでは30年近く続いた紛争が2009年5月に終結し、内需拡大などで2012年に過去最高となる9.1%の経済成長を達成しました。近年も3%以上の持続的な成長を遂げ、2017年には1人あたりGDPが4,000ドルを突破しました。日本のインフラ整備は、スリランカの経済成長と国民所得の増加に寄与してきました。



(写真提供: JICA)

南部ハイウェイ建設事業

日本は、スリランカの経済成長促進のため、コロンボ近郊と南部地域を結ぶ約67kmの区間に、同国で初めての高速道路を建設しました。2011年11月に開通した同高速道路には、日本が得意とする軟弱地盤に対応した工法が用いられています。また日本は、道路完成後も運営管理トレーニングを実施するなど、ハード・ソフトの両面で同国の道路網整備に大きく貢献しています。

目標 **2022年**
後発開発途上国からの脱却へ

ネパールでは、震災復興への取組を進めるとともに、2022年までに後発開発途上国からの脱却を目指し、災害に強い国づくり、社会・経済基盤整備、貧困削減と生活レベルの向上、民主主義の基盤制度づくりを4つの重点分野として、積極的に支援しています。



(写真提供: JICA)

識字率 **58%**
女子にも教育の機会を

パキスタンでは男女間、都市農村間での教育格差が大きく、識字率は58%と低い状況になっています。特に農村部では学校数が少ないうえに、社会習慣から女子生徒の就学環境が限られています。このため、女子生徒が就学可能な女子学校の整備が必要です。



(写真提供: JICA)

電化率 **77%**
電力需要への対応が急務

バングラデシュでは近年の経済発展に伴う電力需要の増大に対し電化率は77%程度に留まり、また、ピーク時の電力供給は電化地域の需要の約8割しか満たしていません。周波数・電圧の不安定や電力設備の劣化など、電力の安定供給が課題となっています。



(写真提供: JICA)

目標 **2020年**
援助依存から自立へ

ブータンは、1人当たりのGNI(国民総所得)が10年で約2倍に伸びるなど着実に経済成長が続いていますが、都市と農村の格差が顕在化するなど課題を抱えています。ブータン政府は2020年までに援助依存からの脱却を目指しており、目標達成には、地方部の生活改善を図る必要があります。



(写真提供: JICA)

平均海拔 **1.5m**
国土消滅の危機

モルディブは平均海拔が1.5mという平坦な地形のため、サイクロンによる高波や地震による津波の被害を受けやすい地形です。また、地球温暖化を原因とする海面上昇とサンゴ礁の死滅に対応するため、モルディブは国際社会に環境保護を訴えています。



商業的農業促進プロジェクト

ネパールでは野菜や果物などの生産供給ポテンシャルが高いものの、マーケット・アクセスに限られています。シンズリ道路沿線地域商業的農業促進プロジェクトでは、日本の無償資金協力により開通したシンズリ道路の沿線地域における農業の商業化を支援しています。この支援により道路沿線の地域の農家の農業収入が向上するだけでなく、商業化のノウハウがネパールに広く普及していくことが期待されます。

シンド州南部農村部 女子前期中等教育強化計画

日本は、既存小学校31校に、女子生徒が通える前期中等教育施設を増改築し、机や椅子などの教育家具やコンピューターの調達を無償資金協力で支援しました。これにより女子の基礎教育へのアクセスが改善され、男女間格差の是正や高等教育への女子進学率の向上も期待されています。

電力・エネルギー 安定供給支援

電力需要の増大に対応し、電力を安定供給するため、日本は、新規電源開発、及び変電・送配電施設の整備支援を進めています。また、国産天然ガス供給不足に対応するため、エネルギー多様化への支援も行っています。併せて、経営能力や維持管理体制の強化支援、省エネ等において、日本の知見活用などを推進しています。

電力マスタープラン 2040策定プロジェクト

ブータンの国家財政は水力発電の事業税収や売電収入によって支えられ、国家歳入の約20%、GDPの約15%を水力発電が占めています。日本は、ブータンにおける2040年までの電力マスタープラン策定を支援すると同時に、現地職員的能力強化を目指しています。

マレ島の護岸工事

日本の無償資金協力により1987年から15年間にわたってマレ島を取り囲む防波堤を設置。2004年のインド洋大地震及び津波で、モルディブ国内は死者82人、被災者15,000人以上という大きな被害を受けたものの、マレ島は壊滅的被害を免れ、政府の機能も維持されました。2006年、モルディブ政府は日本の経済協力への感謝として、日本国民に対し「グリーン・リーフ」モルディブ環境賞を授与しました。

南西アジアと日本の 顔の見える交流

長年続いた紛争の終結や治安の回復などにより、近年、南西アジアと日本は、人的交流も活発です。現在、南西アジアで暮らす在留邦人は1万3000人を超えています。

一方で、日本へ進学や就職などでやってくる人々も年々増加し、今では約15万人の南西アジアの人々が日本で生活しています。

人の往来が盛んになった背景には、南西アジアの国々と日本が長年にわたって“顔の見える交流”を続けてきたことが大きく影響しています。人材教育や農業、スポーツなど様々な分野で、日本人が貢献した草の根レベルの活動をご紹介します。

ビジネス人材

(写真提供:JICA/船尾修)



リーダー育成支援の様子

製造業のリーダーを育成

急速な経済成長を遂げるインドの製造業において、成長のカギとなる課題の一つは、リーダーの育成でした。日本はインド政府からの要請を受けて、2007年8月から2013年3月まで技術協力プロジェクト(VLFMプロジェクト)を実施し、900人近くの経営幹部を育成しました。

さらにVLFMプロジェクトの後継事業となるCSMプロジェクトでは、環境配慮や包括的な成長への寄与という新たな分野の付加によって、質の向上と規模の拡大を図ることを目的としています。

女性



寡婦の女性たちと一緒に乾燥魚づくりをする西森さん(左)

漁師が教える乾燥魚づくり

長年にわたる紛争やインド洋地震で夫を失った寡婦らの生活向上のため、NPO法人パルシックはスリランカ北部のジャフナで乾燥魚づくりの支援を開始しました。

プロジェクト終了まで、2010年からの3年間現地で活動した西森光子さんは、それまで現金収入を得たことのなかった女性たちに衛生的な乾燥魚づくりの研修を実施。品質管理や販路の開拓、経理記録にいたるまで、寡婦が一定額の収入を継続的に得られるよう自立に向けた支援を行いました。



(写真提供:JICA/谷本美加)

子ども



組合員にミシンの使い方を指導する土岐さん(左)

母への支援で貧困を脱却

認定NPO法人の「国境なき子どもたち」は、2007年11月のサイクロン被害によって困窮した状況に陥ったバングラデシュの子どもたちを救うため、男性だけでなく女性も縫製や機織りで収入を得られるよう支援してきました。

現地で活動した土岐三輪さんは、協同組合の設立によって個人では受けられない大きな仕事の受注を可能にしました。3年にわたって技術とビジネスの手法を指導し、2015年には技術的に難しい小中学校の制服を38校から受注し、組合の女性たちの収入は2割も向上しました。

文化

(写真提供:多井忠嗣)



アガンチェン寺の実測調査を行う多井さん

地震大国の世界遺産を守れ

2015年4月にネパールで発生した大地震で、世界遺産「カトマンズ盆地」にある多くの文化財は、壊滅的損傷を被りました。

多井忠嗣さんは、日本の文化財建造物修理のスペシャリストとしてネパールの考古局へ派遣されました。図面や記録がほとんど残っていない中で、現地の技術者とともに修復計画策定や調査工事の準備を進めています。文化的価値を損ねずに耐震性を強化するという日本の高度な文化財修復技術により、アガンチェン寺の修復作業が進んでいます。

農業

(写真提供:JICA/野町和嘉)



農業試験場で農家らを対象に研修を行う富安さん(右)

自給自足から“売れる”農業へ

富安裕一さんがプロジェクト・リーダーを務める農業試験場では、栽培研修で剪定や摘果作業などを教えるほか、新しい品種の導入にも取り組んでいます。ブータンの主な産業は農業ですが、これまでは自給自足が中心だったため品質向上の意識は薄く、さらに急峻な山沿いに点在するので、生産性の向上は容易ではありませんでした。

強いリーダーシップによって農家の自主性や責任感も向上させるなど、富安さんの地道な活動は周囲の信頼を集め、ブータン政府からも高く評価されています。

アパレル

(写真提供:JICA)



研修所で指導する日本人専門家(右)

繊維を“もうかる”産業へ

パキстанは綿花の生産量が世界4位。繊維は重要な産業です。2016年6月からスタートした「アパレル産業技術向上・マーケット多様化プロジェクト」では、日本人専門家達を派遣し、訓練校の研修内容をアパレル産業の要望に応えたものにするべく、個々の技術向上と、管理層の品質向上への意識を高める研修を実施しています。

パキстанでは輸出品の多くは低技術・低付加価値の製品にとどまっていたため、こうした官民を挙げた高付加価値化の取組により、輸出額を倍増するという大きな目標を掲げています。

スポーツ

(写真提供:JFA)



モルディブ女子代表を指導する河本氏

日本人監督で初勝利

2017年3月までの約3年間、モルディブ女子サッカー代表チームの監督として、日本サッカー協会から河本菜穂子氏が派遣されました。着任当初、イスラム圏のモルディブでは女子サッカー人口は100人未満と少数でしたが、河本氏はそれまで2ケタ失点が当たり前だったチームの意識改革から始め、基本から指導。国際試合で初勝利を挙げるなど目覚ましい躍進を遂げ、今では南西アジアの強豪チームの一つに名を連ねています。

現在、モルディブは小田原市と東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた事前キャンプに関する協定を結び、スポーツでの交流が続いています。

豊かな自然に息づく 南西アジアの 多種多様な 生きもの



インドゾウ

インドと言えばインドゾウです。また、ガネーシャというゾウの頭と人間の体を持つヒンドゥー教の神様としても大切にされている動物です。



セイロンヤケイ

スリランカの国鳥も日本と同じキジ科です。森の中に棲むカラフルな野生の鶏は、この国の固有種です。



一角サイ

ネパールの南平野部に生息し、一角サイを見ることができるチトワン国立公園とバルディア国立公園は観光客に人気です。現地では「ガイダ」と呼ばれ、100ルピー札にも描かれています。



マーコール

ヤギの仲間、体が大きいことから「野生のヤギの王様」を意味する言葉が名前の由来です。パキстанの国獣で、国際自然保護連合の準絶滅危惧種に指定されています。



ベンガルトラ

インドとバングラデシュにまたがるマングローブ天然林(ユネスコの世界自然遺産)に生息する、バングラデシュの国獣です。個体数の減少により絶滅危惧種に指定されています。



ターキン

ブータンの高地の森林地帯に生息するウシ科の動物で、雌雄ともに湾曲した角を持っています。森林伐採や乱獲により生息数が減少しています。



キハダマグロ

水産業が盛んなモルディブでは、環境に優しい一本釣り漁法が主流です。モルディブは世界一魚を食べる国と言われており、1日3食すべてが魚が食卓に上ることも珍しくありません。

個性豊かな南西アジアを探訪しよう!

ネパール

多様な宗教が調和し、
魅力的な文化を形成。

様々な宗教が融合しているネパール。チベット仏教の中心的存在となっているのが「ボダナート寺院」で、巨大ストウパ(仏舎利塔)は世界遺産にも登録されています。



ボダナート寺院

100以上の
民族がいるから、
民族衣装も
バラエティ豊か!



バードシャーヒ・モスク

パキスタン

歴史的建造物を
巡るならラホールへ。

パキスタン第二の都市ラホールには観光名所が多く、「バードシャーヒ・モスク」もそのひとつ。ムガル帝国時代に建てられ、当時モスクとして世界最大の大きさを誇りました。



タージ・マハル

民族衣装の
サリーは、地域に
より巻き方や素材に
特色があるよ。



頭や首回りに巻くショールは、
女性の必須アイテム。



インド

イスラム建築の傑作
「タージ・マハル」は必見。

インドを代表するイスラム建築である「タージ・マハル」。ムガル皇帝シャー・ジャハーンが亡くなった王妃へ贈った愛の結晶として知られています。



パハルプールの
仏教寺院遺跡群

男性は
「ルンギー」という
スカート風の服も
よく着るよ。



バングラデシュ

かつて栄えた巨大仏教遺跡は圧巻。

バングラデシュで見逃せないスポットと言えば「パハルプール」。壮大な仏教寺院の遺跡群で、出土した数多くの粘土板の浮彫も有名です。



北マール環礁

モルディブ

誰もが憧れる、
美しい海に囲まれた楽園。

モルディブにはリゾート島が100以上あり、透明度抜群の海を満喫するなら、海上コテージに泊まるのがおすすめです。



モルディブの女性の
伝統的衣装はとても
色鮮やかだよ。



シーギリヤロック

スリランカ

訪れる者を魅了する
世界遺産が点在。

8つの世界遺産を保有するスリランカ。ジャングルにそびえ立つ「シーギリヤロック」は、美しい天女の壁画が残る宮殿遺跡で、人気の世界遺産です。



これはキャンディ
地方の婚礼衣装。
王様スタイルだよ。



外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1 電話(代表)03-3580-3311

編集 アジア大洋州局南部アジア部南西アジア課 発行 国内広報室 2019年3月